令和3年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会　発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より"環境整備"に取組む	✓
昨年度から引き続き"環境整備"に取組む	
昨年度までの"環境整備"を経て、今年度より事業化に取組む	
昨年度までの"環境整備"と"支援チーム派遣（事業化支援）"を受けて引き続き事業化に取組む	

活動団体名：ツネイシグリーンエナジー株式会社
活動地域　：広島県神石郡神石高原町

活動におけるテーマ・キャッチコピー
『地域の森林資源・自然等を活用した新たな経済循環・資源循環の創出～木質バイオマス発電副産物活用モデル～』

活動団体紹介

◎ツネイシグリーンエナジー株式会社（申請主体）

- 当事業の事務局であるツネイシグリーンエナジー（株）は、常石グループの一企業として、再生可能エネルギー発電事業等を担う会社として発足しました。
- 常石グループは海運・造船から始まり、現在では、環境、エネルギー、農業、建設など地域社会に貢献するさまざまな事業を国内外へ展開しており、神石高原町ではライフ＆リゾート関連を中心に事業展開しています。
- 現在、ツネイシグリーンエナジーは神石高原町と協力体制を構築し、バイオマス発電事業や小水力発電事業を計画しています。

ツネイシグリーンエナジー株式会社

神石高原町（共同事務局）

- 神石高原町は人口約8,600人（2021年5月現在）で、農作物に好適な環境が揃い、特産品が豊富な町です。
- 一方で、全国の自治体と同様に人口減少が課題であり、農業を生業としながら、持続可能な農林業・商工業の振興に努めています。
- 神石高原町役場も事務局の一員として、町内の様々な関係者、町との連携協定を締結している様々な団体・企業の巻き込みなど、多様な面で協働していきます。

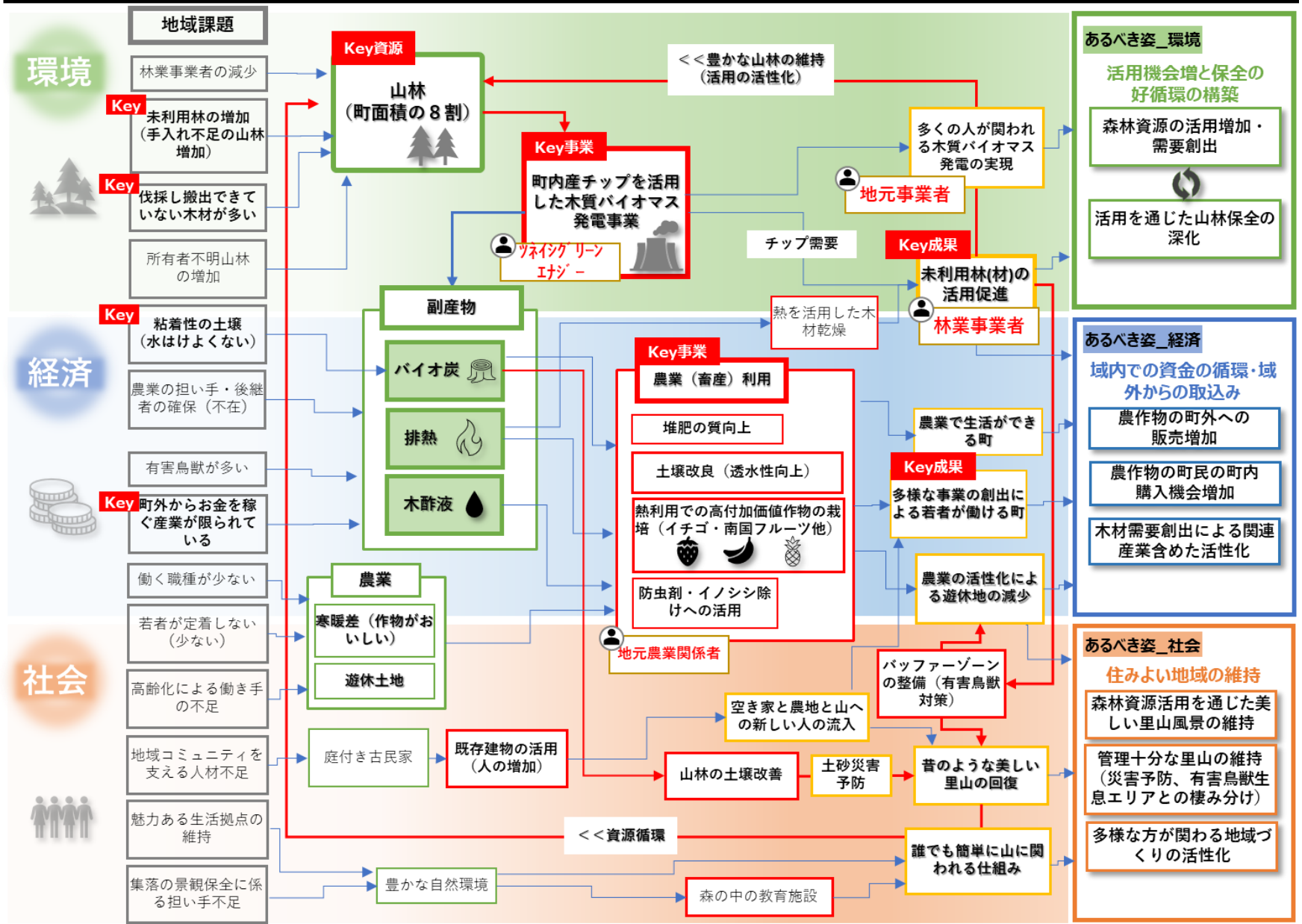
株式会社YMFG ZONEプラニング（共同事務局）

- 地域金融機関の山口フィナンシャルグループのグループ会社であり、地方創生・地域活性化コンサルティングにおいて中央省庁・自治体からの豊富な受託実績を有しています。
- 地域における新たな経済循環の創出に向けた検討、地域ネットワーク構築の支援等を通じて、共同事務局として地域循環共生圏（ローカルSDGｓ）の形成に向けたサポートを行います。

YMFG 株式会社YMFG ZONEプラニング
地域のために、あるべき未来に向かって

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

神石高原町 木質バイオマス発電事業を起点とした資源循環モデルマンダラ図2022.2ver



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

○ 第一回意見交換会の開催

- 地域のありたい姿や、地域の資源である山林の有効活用策である木質バイオマス発電事業についての意見交換や取り組みの説明を地域の事業者などの関係者向けに実施。
- 木質バイオマス発電から発生する副産物（排熱・バイオ炭）の活用について、多くの活用アイデア出しを実施することができ、地域のプレーヤーとの接点づくりも行うことができた。

○ 地元農業関係者との意見交換の実施

- 第二回意見交換会の開催に向けて、地域の世話役の方からの紹介で、地元農業関係者との接点づくり・意見交換を実施。
- 地域農業などの具体的な課題や、副産物活用に関して前向きな意見や活用策のアイデアを得ることができ、今後の意見交換の材料を得ることができた。

（有効なアイデアの一例）

◎バイオ炭が粘着性の高い土壌の改善に有効、畜産農家でも活用可能性有　他

取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

○ 取組の環の広がり

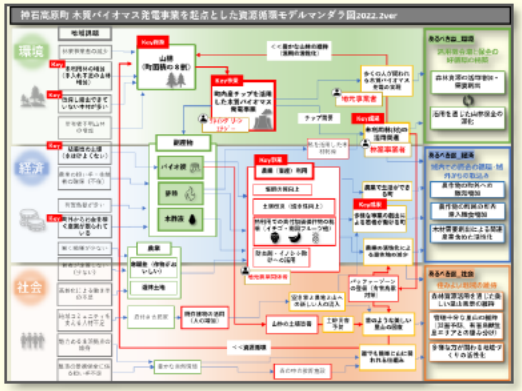
- 第一回意見交換では、地域の林業事業者、商工団体、その他事業者など多くの方に参加頂き活発な意見を頂くことができた。
- 同時に、これまで接点のなかった林業事業者などとの接点を持つことができ、町内産のチップ調達などにも好影響を与える可能性のある関係性が構築できた。同時に副産物活用において、農業関係者との接点も構築することができた。

○ マンダラ図の変化（取組の関連性の可視化）

- 当初のマンダラ図は第一回意見交換会で寄せられた意見が一覧化されている状態であったが、第二回意見交換会に向けた農業関係者との意見交換により、**深掘りされた課題と活用する資源、取組、成果、ステークホルダーの構造の可視化が進展**した。

2021年11月時点のマンダラ図

現在のマンダラ図



取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

○ 事務局と参加者との期待の一部ミスマッチ

- 意見交換会において、参加者間で地域のことや、副産物（排熱・バイオ炭）活用等について活発な意見交換をして頂き、色々な意見やアイデアを出して頂くことができたが、一方で当社が検討している木質バイオマス発電事業自体への関与の期待感を持って意見交換会に参加された事業者の方も多く、プラットフォームで検討したいことと参加者の期待感が一部ミスマッチする部分があった

事務局の議論したい内容

・地域のありたい姿
・バイオマス発電から発生する副産物の活用

一部ギャップ

参加者の期待

・バイオマス発電事業本体への関心（関与）

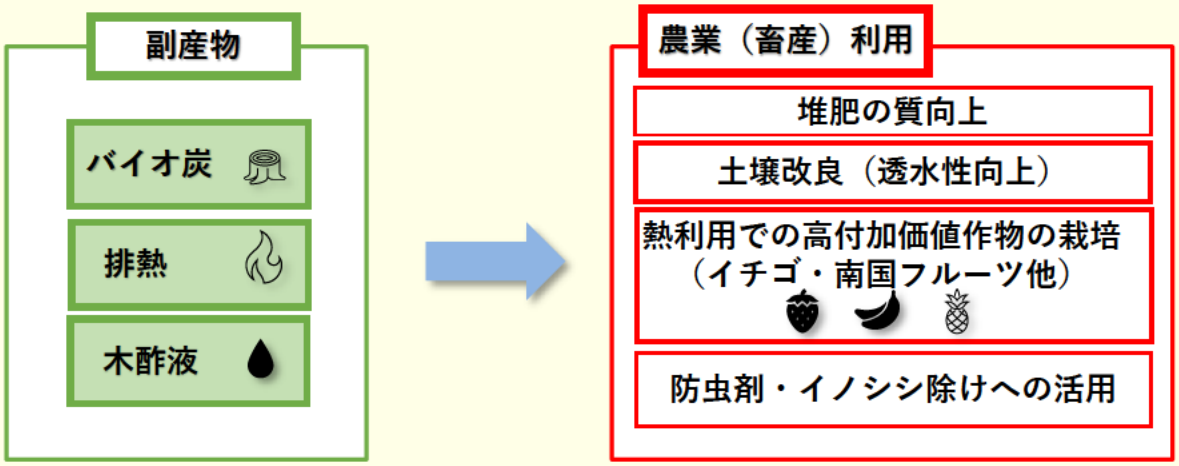
○ 熱利用についてより近接性が必要

- バイオマス発電から発生する副産物である熱について、現状の想定の温度ではより近接した場所での活用が必要となる
- 南国のフルーツなどについては、熱量的に一定のハードルがあるとの意見を地元から得た

今後の展望

＜地域プラットフォームの構築に向けた取組＞

- 1年間の活動を通じて、地元の方にも尽力頂き、事業者を中心に多くの接点を持つことができ、今後も必要に応じて、集合型などの形式にこだわらず多様な方との情報交換や個別の連携を行っていく。
- 今回整理したマンダラ図を、今後地元の方への説明の際に活用し、**地域一帯で“地域循環共生圏の形成”に取り組んでいくことの必要性や、当社事業自体もこうしたビジョンを持った取り組みであること**を伝え、多くの方の賛同を得ながら進めていきたい。

＜事業化に向けた取組＞

- 地域の方との議論を通じて地元の課題の深掘りやニーズの把握などを進め、副産物（熱・バイオ炭）の活用策についての具体化を行っていく。